



草木でおおわれていた景色も葉が落ち、紅葉が始まり、木の向こう側が少しずつ見えるようになって来た。畑では豆やビートの収穫も終盤戦、大型トラックがビートを積んで忙しそうに行き交う姿を見ていると、今はもう秋、誰もいない海♪を実感する今日この頃、みなさん如何お過ごしでしょうか。

先日、将棋の藤井聡太さんがハチ大タイトル戦になって初の八冠達成を若干21歳で成し遂げた。快挙である。ひとつ、ひとつのタイトル戦に目標を定め、夢に向かって挑戦していく姿は、多くの人々に感動と勇気を与えてくれました。はじめのいっぽの子どもたちもそれぞれの目標に向かって歩いてほしいものです。

「人を育てるのは人だけではない。動物もまた人を大きく育ててくれる。」人間の身近にいる犬や猫は私たちが癒してくれる、素晴らしい存在である。その恩返しとして、私たちは動物のお世話をさせてもらう。毎日の散歩や小屋の掃除そして動物の健康管理とお世話も大変であるが、そのお世話係になった私たちが大きく育つのです。

大人に何を言われなくても自分のこととして、動物の世話をする、「これは動物のことだけでなく色々なことに通じる」子どもたちが進んで取り組む姿を想像します。自分の人生の喜びとは何か。漠然と生きてはいないか、考えてしまう、幸いなことに。いっぽには羊のミーちゃん・メイちゃんがいますが、今は、ただ柵越しに眺めて、可愛いねと言ったり、近所の人が時折、草を持って来てくれたりと、過ごしていましたが、これからは先生方や子どもたちと相談して、どんな関わり方ができるか意見を頂きながら、羊のお世話をしていけたらいいと思います。

私たち大人は、子ども中心の関わりで、急がず・ゆっくり・じっくり・ていねいに、子どもを、「まっ」気持ちで、療育にあたりたいと思います。

代表 石橋 和久



## 11月のスケジュール

日時	行事
11月 3日 (金)	文化の日
11月20日 (月)	定例会議
11月22日 (水)	あっちこっち紙芝居
11月23日 (木)	勤労感謝の日

厚生労働省より推奨されておりますペアレントトレーニングを、はじめのいっぽで行うことが出来るようになりました。月に1回2時間程度を7回参加できる方、ご興味のある方は、山本までLINE お願い致します。

## 小中学生編

### ～収穫と恵みの食事～

10月、途別のいっぽではサツマイモが収穫時期になっています。土の中でどんな風に育っているのか、そしてどんな大きさになっているのか楽しみです。

いっぽを退職された長崎さんが、途別の畑を継続してお世話をしてくれています。そんな長崎先生の説明を聞きみんなで芋ほり開始です。

静かに、優しく抜かなければ、芋は土の中に残ってしまい手で土をかき分け探さなければなりません。さて上手に抜くことが出来たかな？ コツをつかみ続々出てくる芋は立派な芋ばかり、中にはヒョロヒョロ芋もありますが、だからこそ面白い芋ほりでした。

芋ほりの後、甘みを増やすために2週間ほど寝かせたある土曜日、待ちきれず焼芋をすることになりました。新聞紙にくるみ、その上からアルミホイルで巻いて、熾火を作ったドラム缶釜に入れ約40分、ホクホクの焼芋が出来上がりました。せっかくの熾火を利用して、棒パン作りも楽しみました。パン生地を棒の先にねじり、熾火の上でじっくりと焼き上げます。美味しく焼くにはどうしたらいいのか、近づけすぎて真っ黒になったり、遠すぎてなかなか焼けずに涙ぐむ子も出たりと、日々の活動の経験が次に生かされるよう出来る限り失敗して学んだほうが身に着きます。

お昼ごはんは、自分たちで焼いた焼芋と棒パンとシチューで外ご飯となりました。



### 河川敷ピクニック

夏場は良く涼みに行く親水公園へ今回はピクニックしながら楽しんでみました。広ーい芝生で思いっきり野球をしたり、河原に降りて珍しい石を探しハンマーで割って図鑑で調べてみたりと、好きなことを好きなだけ取り組み、いっぽで作った手作り弁当で秋のピクニックを楽しみました。



## 集中力

裁縫・缶切り・切り絵・ねんど・おやつ作りと手先を使う事を普段の活動から体験している子どもたち・・・針や刃物などスタッフの見守る中、道具を使いいろんな経験をしてもらっています。自分で力加減を調整し、どんなふうに使いきなすのか試行錯誤をしている姿を見るのはとても頼もしい限りです。



## 10月の日常ショット



## ひつじ組 編 (未就学児)

### ～10月の活動～



最近、子ども同士の関わり合いが多く、順番を待ったり一緒に同じことをして遊んだり、相手の物を取ってしまい、その反応にびっくりしたり・・・。そして何かの行動をした後に大人の反応を確認する、“社会的参照”を逃さないため私たち大人は、しっかりと子供に目を向けた関りを惜しみません。ちなみに、社会的参照を十分に得られないと、自己実現の欲求を持たない人格が形成されてしまうのです。今が大事な時なんですね。



### ～子どもの声を聴くかわり～



先日、保育士会の講演会がありました。テーマは「保育の中の子どもの声」でした。※子どもは自分の声を聴き取られながら、自分の心を育てていく。※子どもの声に耳を傾け、子どもの声に寄りそう保育を心掛ける。※自分の声を聴き取られる喜びを知った子供だけが、相手の声を聴き取る主体に発達する。※大人はわかっている、答えを始めから言ってはいけない。

子供は小さくても、ひとりの人格を持った人間ということを忘れず、早速いっばでは、子供たちの声を聴いて、次の週の週案を立てることにしました。

